

地区別体育授業改善研修会(中学校 R5,11,15)

本研修会の目的は、「『体づくり運動』の授業改善に係る研修を通して、教員の資質向上を図ること」です。当日は、提案授業並びにその研究協議や実技研修を通して、運動の楽しさや心地よさを味わわせる「体づくり運動」の在り方を実践的に学ぶことができました。体力・運動能力の低下傾向、肥満傾向児童生徒の出現率の増加、運動する子としない子の二極化など、様々な課題はありますが、研修会の内容は、こうした課題の解決につながるものでもあります。運動をすることが好きな子どもたちを増やすため、ひいては生涯にわたって、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成につながるために、「体づくり運動」の重要性を再確認した研修会になりました。

1 単元とプロジェクトメンバー

単元名 A 体づくり運動
(ア 体ほぐしの運動 イ 体の動きを高める運動)
授業者 一関市立藤沢中学校 教諭 志田 一茂
支援委員 一関市立大東中学校 教諭 古里 睦子
一関市立室根中学校 教諭 平 宗真

2 授業改善の視点

- (1) 汎用性のある「体づくり運動」の単元の提案
- (2) 手軽さやだれもが楽しめることを大切に運動、教材の選定
- (3) 「関わり合い・気付き、共生の視点」を大切に授業展開

3 提案授業について



各単位時間の導入に帯で行っていく体ほぐしの運動の様子。



「心と体の関係メーター」。体ほぐしの運動を行う前後の心と体の状態や変化を可視化します。



グループのテーマに沿って、バランスのよい運動の組合せの順序や行い方(回数、強度など)を考える様子。



決定した順序や行い方で、実際に運動を行っている様子。長縄を跳びながら次の人にボールを渡していきます。



各グループの運動の組合せをタブレットで撮影。学習状況の記録や評価に活用します。



各グループの運動の組合せ方等について、テーマに合っているかアドバイスを伝え合う様子。

研究協議では、授業のねらいに迫る生徒の発言やつぶやきなど、生徒の姿で語る発言が多く聞かれ、充実した協議になりました。

4 助言から

(岩手県教育委員会 保健体育課 生駒大輔 主任指導主事)

- ★「体づくり運動」には一定の型がないため、単元をデザインする力が求められる。2年間を見通しながら、指導事項をバランスよく配置し、資質・能力を確かに育むことを大切にしたい。指導と評価の一体化についても「点」でなく「線」で行うことを意図していきたい。(例：単元2時間目で「共生」の態度を評価し、6時間目で「共生」の思考・判断・表現を評価するなど、関連性やつながりを意識する)
- ★子どもたちに資質・能力が身に付いているかを見取るためにも、生徒の気付きを拾い上げて発問に生かしたり、動きに対してフィードバックしたりする、教師の働きかけや学びに寄り添う姿勢が重要である。
- ★体づくりの運動とストレス対処の学習を関連付けて行うなど、体育分野と保健分野を効果的に結び付けることで、教育の質の最大化を図りたい。

5 成果

- 育成を目指す資質・能力をバランスよく配置した単元の提案と研究協議を通して、「体づくり運動」の授業改善について、学びを深めることができた。
- 提案授業と実技研修の往還により、「体づくり運動」の授業の具体について、実感を伴う学びになった。
- 研修者から「体づくり運動」の有用性を再確認した声が多く聞かれ、今後の授業改善につながる貴重な研修会になった。

～研修者の感想～

- *教師の発問やフィードバックから、生徒にいかにか思考させるかが大切だと感じました。
- *運動やコミュニケーションをとることが苦手な子ども運動を楽しんだり、友達と協力したりする喜びを味わえる体ほぐし運動の役割は大きいと感じました。
- *一つ一つの運動にどんな目的やねらいがあるかを理解させながら行わせることが大切だと改めて感じました。



授業改善の視点に沿って話を進めながら、「体づくり運動」についての学びを深める様子



熱心に実技に取り組む研修者の様子